

Aチームの発表

Aチームでは、前回の意見を踏まえてまとめたところ、①の新しい時代の学びへの対応と②の多様な背景や特性のある児童生徒への対応を合わせて絞り出したフレーズが、「多様な学びを自分で選択できる学校」になりました。ICT等、色々な新たな学習がある中で自分自身でそれを選んでいく、学びも体験であるとか、そういうものも選べる。また、ちょっと休みたいな、休憩したいなどということも自分で選べる、そういう自分自身が決めて選ぶことができる学校というのが大事であるということを話し合いました。

③の地域との連携ですが、こちらは地域の色々な人材を活用しようということで、まずは地域の人材の発掘をやって、1回限りではなく、継続的に活躍してもらうシステムをつくるのがよいのではないかという話にまとまりました。

④の生活・安全面では、当分の間、現行のものを活用しなければならないとしても、メンテナンスをしっかり行うことで、清潔で、心地よい空間がキープできるのではないかということです。また、やはり防犯という意識も大事で、カメラの導入であるとか、新しいものを入れる意識というものを構築していくことが大事ということでした。

Aチームの発表



Bチームの発表

①の新しい時代の学びへの対応では、まず、場所がほしい、そしてどういったことが考えられるかというと、図書館といったものがあります。図書館を中心にして、その前にみんなが集う場所であったり、周囲に自習室であったり、ちょっとした大きなグループでもさわいでもいいぐらいの大きさがあるフリーデザインの図書館といったものを模索してもいいのではないかという意見が出ました。特に、プールというものがなくなっていく中で、その跡地を活用する。プールつぶして、その後にまた箱物建てるということは費用がかかることですけれども、大きな体育館ではなくて、もうちょっと小規模の使い勝手の良いミニ体育館のようなものを建てたりとか、子どもたちから出ている意見ではプールの跡地で遊びたいとか、また畑をしたりとか、虫を育てたいとか、色々な意見があるので、じゃあ二階化したらいいじゃないかとか、色々な意見がありましたが、これについては、大きなところであります。

機材関係では、椅子について意見が色々とありました。広い机と、それに合わせた高さが制御できるような椅子、児童生徒の身長に合わせて使えることができる椅子があって、広い机を1つ置けば良いのではないかと思います。

それと、タブレットについて、色々な文書に出てきますが、はたしてどうなったかというと良くなつたということです。良いところも、悪いところもあって、大多数が良いところであって、もうタブレットがない時代には戻れないというようなことが言われております。

あとは、④の生活・安全面ともかぶるんですけども、学校を安心できる場所にしてほしいという意見がありました。

世代間交流として、学校施設を活用できないかということがあります。それについては、②の多様な背景や特性のある児童生徒への対応という中で、ハードウェアでいくらなんとかしようと思っても、それに対応する人材が非常に重要ですという意見がありました。人がいなければ、どんな枠組みがあっても、場所があっても、児童生徒には十分に対応できないのではないかということです。その中で、空き教室、保健室を使えるようにしようということですが、とりあえず人材も必要ということです。あと、悩み相談の部屋も欲しいということで、教会の告白室みたいな作りもいいのではないかというアイデアがありました。これは、目の前にスクールカウンセラーの方がいればいいのですが、それが難しい場合は、ＩＣＴやタブレットを活用して、遠隔で、リモートで対応はどうかという意見がありました。あとは、デンとかアルコープに関しては、工夫すればできるのではないかと思いました。場合によっては、ミニテントみたいなものでもいいのではないかということです。そういうことで、色々と

学校にいきづらい子どもさんらのケアができるのではないかと意見がありました。

あと、保健室、本来の枠組みからずれた形で、悩み相談とか、そういったことになっているのは問題ではないかということで、保健室の中で疾病とか怪我された方をケアするところと悩み相談するところを分けるということも必要ではないかということでした。とともにかくにも、ここは人材が確保できないことは花は咲かないし、人材を確保できればなんとかできるのではないかということでした。

③地域との連携では、学校で何をやっているか分からない、学校と地域の敷居が高すぎるという意見がありました。これはセキュリティの問題もあるのでしょうがない部分もあります。せっかく、各地域に学校というものがあるのだから、学校を中心に、地域と連携が取れるようなことを工夫していけばいいのではないかということです。ちょっと、ソフト的な面の話でしたが、なかなか情報がでてこないという意見もありました。それと、校外学習ですが、地道にやっていけば、地域との連携がとれるのではないかという風に言われております。

④の安全・安心のところでは、更衣室については、もうちょっと考えていただけないかという意見がありました。時間をずらして着替えるということもあります、やはり今は、各ご家庭の関心も高いのではないかということです。あと、個人のロッカーとかも必要ではないかとか、防犯カメラとか、教室に付けるのではなくて、廊下とか、外構、屏とか門とかに付けるということで防犯でつけてほしいということです。最後にでてきましたのが、バリアフリーですが、是非進めていただきたい。設備の老朽化で耐震補強など色々あるとは思いますが、とにかくでこぼこがあって健常者でもあぶないシチュエーションがあるという意見がありましたので、これも入れて欲しいということでした。

Bチームの発表



Cチームの発表

4つの視点の中で、最初に話したのが、②の多様な背景や特性のある児童生徒への対応です。この観点は、そもそも、だれもが、どの子どもであっても当てはまる環境づくりになると思っています。教室に落ち着けるスペースがあつたら、教室に入りやすいですよね、それでも無理な場合は特別な場所や広いスペースで心を落ち着けたり、チーム担任制ということで先生も色々と相談できたりとか、色々な形態の授業が考えられたりとか、だれもが行きやすい学校が大事なのではないかということでした。

続いて、④の生活・安全面ですが、一番に対応すべきとあった意見が、やはりトイレであり、快適でなければならない。そして、更衣室、今の時代、小学校低学年からでも、更衣室で着替えるのがスタンダードになっていくのかなと思います。あと、職員室に教師1人に対して1つの机がないという学校もありますので、職員室スペースの確保も大事だと思います。総じて、快適な居住空間が大事なんだろうと思います。

それから、①の新しい時代の学びへの対応ですが、おそらく、新しいカリキュラム、教科横断的な学習がどんどん入ってくるんじゃないかなということで、学び方や学ぶ人数の自由度が広がっていくのだろうなと思います。そして、それを子どもたちが選択していくんだろうと思います。それを支える環境というのも、自由度がなければならないということで、自由な設計、色々なスペース、学ぶ道具といったものの選択肢がたくさんある学校が良いだろうと思います。そして、ICTというキーワードをずっと言っているんですけども、小学生、特に低学年などは体験ということは非常に大事ですし、抜くことはできないだろうと思います。

それから、最後に③の地域との連携です。案外、たくさんの意見が出たところなのですが、まずは地域と学校の一体化が大事なのではないかと思います。別々になっている内は、交流はなかなか進みにくいと思います。どちらが正解かは分からんんですが、学校が地域に入るのか、地域の中に学校が入るのか、そういうイメージが大事なのではないかと思います。公民館的なものが学校の中にある、幼稚園や介護施設のようなものが学校にある、そうなると、自然にどんどんと進んでいくのではないかと思います。また、普賢寺小学校のコミュニティスクールのような関係が大事なんだろうなと思います。

これらを総じて、コンセプトということで全体合わせて考えたんですが、「子どもも地域も教員も行きたいくなる学校」です。わくわく、どきどき、にこにこ、わいわい、ゆったり、ほっこり、ごろごろしながら、皆さんに学校に来てもらえればなということでありました。

Cチームの発表

